

BURNING 燃烧

全日本キックボクシング連盟
1月30日 後楽園ホール



◀最後のダウンはカウント2まで数えたところ、カウントが鳴った。この時点で勝敗は決まっていたが佐久間の表情に笑顔はない。



▼日仏国際戦・127kg契約
佐久間晋哉 (判定)
フアブリス・アリューシユ
36歳 16 KO 5敗

佐久間、世界王者に大差で判定勝利でも、ほんの少し何か足りない…



▶初回、いきなりのダウンを奪われてしまった。

「今年こそ自分の年にしたい」
毎年、佐久間はこう思っている。リングに上がり続けてきた。昨年は王座にも就き、現実には冒頭の抱負に近付きつつある佐久間の「勝負の年」となる第1戦目の相手には1階級下ながら、WKA世界王者であるアリューシユが選ばれた。

佐久間は初回にまさかのダウンを奪われる。その後は左ミドルとパンチのコンビネーションで前に出た佐久間の一方的な展開となったがアリューシユも打たれ強く、なかなか倒れない。2回、連打でダウンを奪ったがアリューシユが立ち上がったところでゴング。3回以降、コーナー



■1997年度ファン投票表彰

- ▼ライト級新人賞
今野貴充(建武館)
- ▼ウェルター級新人賞
魔袋斗(藤)
- ▼ミドル級新人賞
瀬尾尚弘(JK国際)
- ▼ベストバウト賞
佐久間晋哉vs立嶋篤史(3・23後楽園ホール)
- ▼特別賞
グライガンワン(タイ)
工藤正泰(藤)
立嶋篤史(フリー)
- ▼MVP(最優秀選手)賞
佐久間晋哉(八王子FSG)
- ▼連盟特別賞
土屋ジョー(谷山)
- ▼殊勲賞
須藤信充(神武館)
- ▼敢闘賞
鈴木達也(稲毛道場)
梅下湧輝(谷山)
- ▼技能賞
山田隆博(谷山)
- ▼フェザー級新人賞
遠藤慎介(不動館)

に詰めて左ストレートを打ち抜いた瞬間にゴングが鳴るといふ幻のダウン以外にも2度のダウンを奪ったが、KOすることはできなかった。

佐久間は今に「これが自分のスタイル」という戦い方が確立できていないのだという。この日の試合に関して「試合後の笑顔で満足のいく戦い方ができたかどうか判断して下さい」と言っていたが、その表情は決して笑顔には見えなかった。

試合後に感じた物足りなさは、KOできなかったことに対するものではなく、佐久間の中にある迷いから生じた戦いぶりに対して感じたものだと思う。アリューシユに戦い方のテクニクでは数段優っているながら、力強さがいまひとつ伝わってこない。相手手を圧倒する気迫と言いつつ、いかに足りない。

今のところ次の試合はまだ決まっていけないが、試合後に会心の笑顔がこぼれるような試合を見ることができるだろうか。

(M)